

あいであ & アイデア

牛舎に手作り噴霧器設置——消毒と暑熱対策を同時に

宮崎県NOSAI北部 尾田 尚登

はじめに

宮崎県東郷町山陰（やまげ）で、60頭の肉用牛繁殖経営を営む福永雄（ふくながたけし）さん（42）は、昨年の6月に手作りの噴霧器を牛舎に設置して、衛生と暑熱の対策を同時に行い、牛舎内の環境改善を図っていますので紹介します。

口蹄疫と木酢液

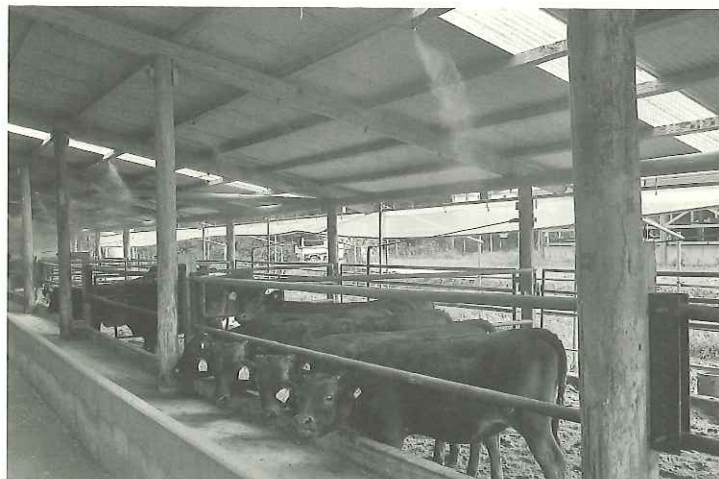
きっかけは、平成22年に口蹄疫が発生した際、牛舎の消毒用として木酢液を散布したところ、子牛の疾病が減ったことに興味を持ったことです。

今回活用した木酢液散布の電動式噴霧器は、宮崎県NOSAI北部が口蹄疫からの復興に際して衛生対策用として地域の農家に配布したものです。

消毒と暑熱対策を同時に

電動式噴霧器にホースをつなぎ、牛舎に設置すれば、衛生と暑熱対策を同時にできそうだと考えた福永さん。福永さんの経営では牛舎はいくつかありますが、はじめに衛生対策効果が高いと思われる子牛飼育舎に設置しました。

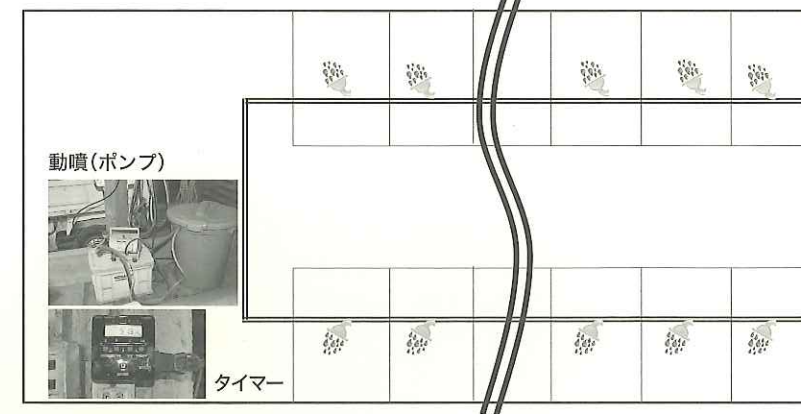
設置にあたっては、自動噴霧できるようデジタル式のタイマーを取り付け、耐薬用チューブを牛舎の母屋などを利用して取り付けました。霧状ノズルは1牛房に1個の間隔とし、木酢液は60倍に希釈して、1日2回午前9時と午後5時に3分間噴霧することとしました。



左：衛生と暑熱対策
を効率よく実施
下：福永雄さん



子牛飼育舎



子牛の疾病は大きく減少

この噴霧により、子牛の下痢症状である白痢（はくり）が、ほとんど発生しなくなりました。白痢は子牛の基本的な疾病ですが、重くなればその後の成長にも影響し、他の子牛に移ることも多く油断がなりません。「白痢の対策は環境から」といわれるように、この噴霧装置によって牛舎内の衛生状態を良好に保つことができるようになりました。

噴霧装置と気候のバランスが大事

噴霧装置が有効な効果を得るためには、気候や牛舎構造とのバランスが大事です。噴霧された木酢液が気化せずに牛床が水浸しになったり、牛舎内の湿度が上がり過ぎては、牛の健康を損ねてしまい意味がありません。

逆に、牛舎内の環境とうまく調和できれば、消毒だけではなく夏の暑さ対策としても有効な装置となります。

製作費は13万円から

材料となるのは耐薬用チューブと霧状ノズル（1個4千円）。設置した鋼管や畜舎の母屋を利用して、チューブ（全長72メートル）に16個のノズルを取り付けました。自動化のためのデジタル式のタイマーは、1個1300円でした。

すべて手作りで、総費用は約13万円、もともとあった噴霧器をうまく活用できたことが、大幅な低コスト化につながっています。現在は、暑さに対する効果も大きかったことから、分娩舎にも延長して効果を上げています。

さらに、近隣の噴霧器所有農家でも、福永さんの事例を参考に設置した事例が増えてきており、今後の普及が期待されます。

（筆者：宮崎県北部農業共済組合 日向センター長）
記事企画取材協力 農業共済新聞

あいであ & アイデア